

No.

Date

古墳時代のおしゃれとは？

8月17日 1年1組18番 渡辺 紗

目次

1. 埴輪にみられるアクセサリ	・・・ 1
2. 古墳から発見されたアクセサリ	・・・ 2
3. 古墳時代の服装や髪型、化粧	・・・ 3~4
3.1. 服装について	・・・ 3
3.2. 髪型について	・・・ 4
3.3. 化粧について	・・・ 4
4. 馬にもアクセサリ	・・・ 5
5. 古墳時代の髪型を再現!!	・・・ 6
6. まとめ	・・・ 7
7. 感想	・・・ 7
8. 参考文献	・・・ 8

テーマは「古墳時代の人々のおしゃれをさぐること」である。古墳から出土している副装品の中にきれいなアクセサリがあったことや、アクセサリをつけた人物埴輪がたくさん出土していることから、古墳時代の人々はどんなおしゃれをしていたのか気になり、調べることにした。また、このテーマを通しておしゃれの原点を知ってもらうことだけでなく、このことをきっかけに古墳のことについてもっと知ってもらえれば「いいな」と思った。

1. 墳輪にみられるアクセサリー

墳輪は被葬者へのお供えやかさりのため、土くずれを防ぐため、被葬者を悪霊から守る魔よけのため、被葬者と権威づけるために古墳の上やまわりに置かれた。様々な種類の墳輪が出土している中で、人物を表現した墳輪にはたくさんのアクセサリーがつけられている。



- 耳かざり
- 美豆良
- 首かざり
- 鈴付大帯
- 太刀



- つぶし島田
- 耳かざり
- 首かざり
- 腕輪



- つぶし島田
- 耳かざり
- 首かざり
- 腕輪

2. 古墳から発見されたアクセサリー

縄文時代から人々は様々なアクセサリーを身につけてきた。

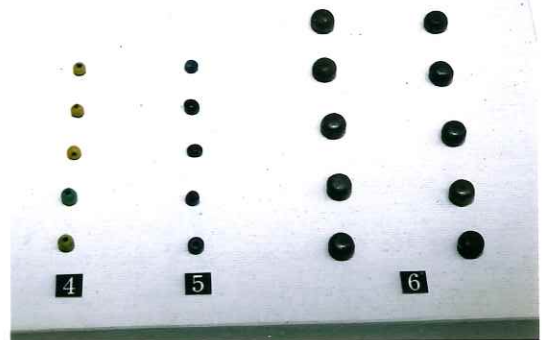
(髪かざりや首かざり、腕輪、耳かざり、腰かざり、足かざり、頭かざり、冠など)

時代	縄文	弥生	古墳
人物	一般の人	特別な人(リーダーや祈る人)	身分の高い人(王や豪族)
目的	魔除け、守護、呪術	呪術、守護、権力	権力、財力、身分、装飾
素材	自然の物 土・石・骨・貝・植物	青銅、鉄、ガラス が加わる	金、銀 が加わる

古墳時代のアクセサリーは、朝鮮民族の影響により、金のアクセサリーが自然素材のアクセサリーより価値のあるものになった。金属による製造技術が発展し、黄金の装飾が新しい権威の象徴となった。



耳環



蜻蛉玉・ガラス玉



なつめ玉・勾玉



金銅鈴付大帯

3. 古墳時代の服装や髪型、化粧

3.1. 服装



4世紀の王



5世紀の王



6世紀の王



男

豪族の男女

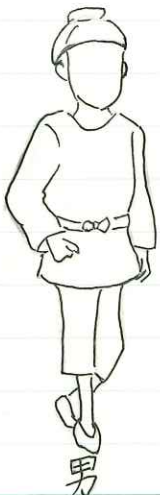


女

上級階級の人にはツースペース製の衣服、えりは左前、衣は前合わせ式、紐で結ぶ。

男：衣袴、手首・ひざ下を紐で結ぶ

女：衣裳



男

ムラの人々



女

貫頭衣、腰に布

3.2. 髪型

男性 美豆良 身分や職業によって相異がある。

- 盛装の男子 … 肩まで垂らした美豆良に飾り紐
- 椅座・弹琴・跪座像 … 3分にわけた髪の後を長く垂髪にする。上髪を短く左右に分け、下髪を長い美豆良に結ぶ。
- 農夫 … 左右にふり分けた髪を小さく結ぶ。上げ美豆良
- カ士 … 扁平な立髪

女性 つぶし島田

長い髪を前後に折り曲げて、中央部分を紐で結び、額には髪が崩れないように櫛を下から差し込む。

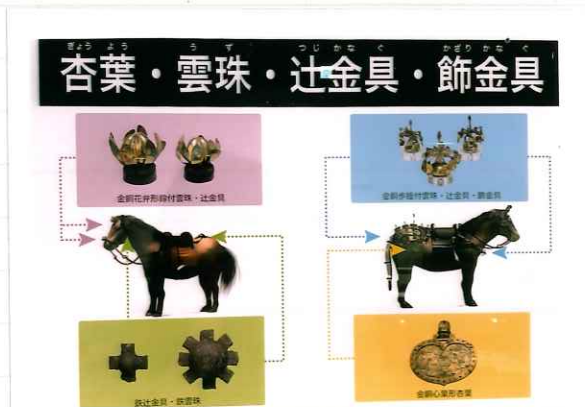


3.3. 化粧

額・頬・顎に赤色の彩色が首長、貴人、侍女、馬飼など幅広い階層の人々に見られた。現代の「おしゃれ」としてではなく、儀礼に関わる化粧で赤色に魔除けなど呪術的な意味があった。

4.馬にもアクセサリー

4～5世紀渡来人によって、朝鮮半島から伝えられた乗馬の風習は、古墳時代の5世紀後半には急速に各地へ広まっていった。特に群馬県では、火山灰層の下から放牧地の存在が明らかにされたように、広く馬の飼育が行われていた。移動手段や農作業など当時の人々にとって非常に大切な動物であった。特別な存在の馬だからこそ、権力や財力の誇示のために被葬者は自らの馬を装飾する必要があった。



金銅歩揺付雲珠・辻金具



金銅花弁形鈴付雲珠・辻金具



金銅心葉形杏葉

5.古墳時代の髪型を再現

男性 美豆良



女性 つぶし島田



6. まとめ

古墳時代にもアクセサリー（髪かざり・かんざし、くし、飾りひも、はちまき・足かざり・首かざり・ペンダント、ネックレス・腕輪・耳かざり・冠）やヘルム、髪型、服装、化粧と様々な装飾方法があった。当時の人々の願いや思い（魔除けや守護、呪術、権力、財力、身分）がアクセサリーには込められていて、それが現代の自分を着飾るための「おしゃれ」に結びついていることがよくわかった。また、身分が高くなればなるほど、身につけるアクセサリーの数も多くなり、金などのきらびやかなものを使用していたことがわかった。

7. 感想

群馬県には、たくさんの古墳があり、昔の重要な地域であったことがよくわかった。古墳のことを知るために、太田天神山古墳・お富士山古墳・宝塔山古墳・保渡田古墳群に足を運んだ。どの古墳も高さがあり、当時の人々が石や土を一生懸命運んだのだらうと想像した。よく考えてみると、古墳の上ということはお墓の上で、被葬者が眠っていた所の上に立っているなんて、バチが当たりそうだなとも思った。

古墳の副葬品にはきれいなアクセサリーがたくさんあり、様々な願いを込めて当時の人々が身につけていたことを思うと、私達が「きれいたから」とか「かわいいから」といった単純な思いでアクセサリーを身につけるのとでは大きな違いがあると思った。ただ現代でも、パワーストーンには石によって様々な願いが込められているので、当時の人々の思いを受けついでいるような気がする。

この研究を通して、埴輪を見るのが楽しくなった。埴輪には、当時のことを知る手がかりがたくさんあり、そこから人々のくらしも見えてくる。さらには、被葬者や古墳の規模も関係してくるので、埴輪ってこんなにも奥深いものなのだと改めて感じた。群馬県にはたくさんの古墳があるので、これからも古墳めぐりをしてみたいと思う。

8. 参考文献

- 監修 一瀬和夫 2002年「古墳の研究」ポプラ社
- 監修 木村茂光 2010年「大むかしのくらし」学研教育出版
- 監修 群馬県立歴史博物館 1996年「図説 はにわの本」東京美術
- 監修 松島榮治 2014年「東国文化副読本」群馬県
- 写真 群馬県立歴史博物館 展示物